

英語科学習指導案

日 時：令和 8 年 10 月 7 日（水）

学校名：神戸市立太山寺中学校

対 象：1 年 3 組

会 場：HR 教室

指導者：田口 隼人（OTE）

Fellores Juanito Facto（ALT）

I 単元について

【単元名】 New Horizon English Course ① Unit 5・6

【学習指導要領に関連する領域別目標】

① 話すこと（発表）

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

② 話すこと（やり取り）

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

③ 書くこと

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

【単元（題材）の目標】

- (1) 三人称単数現在形，人称代名詞，所有代名詞の特徴やきまりを理解するとともに，これらを用いて推しの人物像や特徴について，まとまりのある英文を書いたり，伝え合ったりする技能を身に付けている。【知識・技能】
- (2) 新しく来た ALT の先生に自分のことや日本のことを知ってもらうために，推しの魅力について，事実や自分の気持ちを整理し，簡単な語句や文を用いて話したり，聞き手の質問に答えたりすることができる。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 新しく来た ALT の先生に自分のことや日本のことを知ってもらうために，推しの魅力を伝えようとするとともに，振り返りや中間発表で，自己調整を図りながら学習しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

【生徒の実態】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本文は見ずに言えるようになってきたが，質問に対するとっさの回答では単語だけの応答になりがちである。	自分のことは話せるが，聞き手への質問やリアクションが少なく，発表ややり取りが一方向になりがちである。	振り返りで自分の課題を言葉にできる生徒が増えてきた一方で，言いたかったけど言えなかった表現を自分で調べようとするまでには至っていない。

【単元（題材）設定の理由】

（1）生徒観

1 学期は自己紹介を中心に、スピーチやパフォーマンステストに取り組んできた。基本文の定着が進み、原稿やワークシートに頼らず、何も見ずに話せる生徒が増えてきた。しかし、自分のことを伝える活動が中心だったため、相手のことを尋ねたり、相手の話を受けて返したりする機会は少なかった。そのため、やり取りが一方向になりがちであり、聞き手からの質問にとっさに応答することが難しい。今後は、ただ自分のことを伝えるだけでなく、相手の話を聞いて即興的に反応や感想を述べたり、話を広げて深掘りする質問を相手に返したりして、他者とのつながりを意識できるようになることが目標である。

そうした課題の先に目指す生徒像は、仲間とのつながりの中で自分の表現を更新できる、自立した学習者である。自分のことだけでなく、まわりの人や社会に目を向け、人とのつながりを大切にできる人になってほしいと考える。

（2）教材観

Unit 5 で扱う三人称単数現在形や、Unit 6 で扱う人称代名詞・所有代名詞は、自分以外の第三者について伝える際に欠かせない言語材料である。

本単元では、生徒の関心が高い「推し」を題材とする。「推し」は生徒一人一人で異なり、本人が好きで語る話は聞き手の関心を引きやすく、「なぜ好きなのか」「どんな人物なのか」といった質問や共感が自然に生まれる。生徒観で述べた、相手の話に反応や感想を返し、深掘りする質問を返し、それにとっさに応答するという課題に取り組むうえで、相手に興味をもちやすい題材であると考ええる。

また、本年度 9 月に着任した ALT は初来日であり、日本の人物やキャラクターをあまり知らない。日本の若者の間で人気のある人物やキャラクターを ALT に紹介するという、実際に伝える相手のいる状況は、生徒が目的意識をもって英語を使用し、他者とのつながりを意識することにつながると考える。

（3）指導観

生徒観で述べたように、生徒は自分のことを伝える力は身に付いてきたが、相手の話に反応や質問を返したり、質問にとっさに応答したりすることに課題がある。そこで本単元では、「初来日の ALT に推しの魅力を伝え、自分を知ってもらうスピーチと質問への応答」をゴールとし、パフォーマンステストから逆算して単元を構成する。

帯活動の基本文トレーニングと Q&A では、単語にとどまる応答を文での応答に変えていく練習を重ねる。言語活動では、聞き手が反応や感想、質問を返すよう促し、正確さよりも内容を伝え合うことに重きを置く。中間発表では、仲間の反応や質問をもとにスピーチを見直させ、リハーサルを経て本番に臨ませる。

こうした活動を通して、相手の話に即興的に反応し、話を広げる質問を返しながら、やり取りの中で自分の表現を更新していく力を育てたい。それが、仲間とのつながりを大切にする生徒の育成につながると考える。

【単元（題材）の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 三人称単数現在形，人称代名詞，whose・所有代名詞の特徴やきまりを理解している。 〈技能〉 これらを用いて，推しの人物像や日常について話したり書いたりする技能を身に付けている。	初来日の ALT に自分のことや日本のことを知ってもらうために，推しの魅力について，事実や自分の気持ちを整理し，簡単な語句や文を用いて話したり書いたりするとともに，聞き手の質問に答えている。	初来日の ALT に自分のことや日本のことを知ってもらうために，推しの魅力を伝えたり，聞き手として反応や質問を返したりしようとしているとともに，振り返りや中間発表をもとに表現を見直すなど，自己調整を図りながら学習しようとしている。

※参考：本単元で扱う領域における「CAN-DO リスト形式」による学習到達目標（第1学年）

聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
ゆっくりとした8～10文程度の対話文や説明文を聞き取ることができる。友達の発表を聞いて，必要な情報や要点を捉え，反応・質問することができる。	30～40語程度の英文を読み，おおまかな内容を読み取ることができる。教科書本文を英語の語順のまま音読し，内容を捉えることができる。	推しについて聞き手に質問を投げかけ，相手の反応や質問に応じて，共感したり答えたりしながらやり取りを続けることができる。	推しの魅力（人物・していること・できること・自分との関わり）について，写真を見せながら，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	自分の関心のある事柄（推しの魅力）について，簡単な語句や文を用いて3～5文（15～25語程度）で正確に書くことができる。

2 単元の指導と評価の計画(全14時間)

時間	学習内容 学習過程等	【評価の観点】 評価規準	学習課題(■) 主な学習(言語)活動(○)
			単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す主な場面
第14時	単元テスト 振り返り	【知・技】 単元テスト 音読テスト 【主体的態度】 振り返り	■ 次の単元に生かすために，単元テストと振り返りで，現在地と次の目標を確かめることができる。 ○ 単元テスト・音読テスト ・読むこと，書くこと，文法の問題で，話して身に付けた表現を正確に使えるかを確かめる。 ○ 振り返り ・①できたこと②うまくいかなかったこと③次にや

			ってみたいことを書き、KICPに向けた次の目標を自分で決める。 ○ 次回予告 ・2 学期後半のゴールである KICP は、日本をよく知っている ALT も来るため、「日本でまだそこまで人気ではないが、おすすめしたい推し」について紹介する場として目標を決定する。
			(○) 主体的な学び () 対話的な学び () 深い学び
第 13 12 時	スピーチ本番 パフォーマンステスト	【知・技】 【思・判・表】 【主体的態度】 スピーチ	■ALT に自分のことや日本のことを知ってもらうために、写真を見せながら既習表現を使って推しの魅力を話し、聞き手の質問に答えることができる。 ○ 観点の最終確認 ・観点を確認め、話すときに意識することを一人一人が自分で決める。 ○ スピーチ本番 ・写真を見せながら話し、聞き手とのやり取りを交えながら発表する。 ・スピーチ中の問いかけと質問タイムで、聞き手の反応や質問に応じて内容を付け加える。 ・聞き手は反応・共感・感想・質問をする。 ○ ALT からの質問 ・ALT の 1 人 1 問の質問に答え、用意していない内容も既習表現で伝えようとする。 ○ 振り返り ・①できたこと②うまくいかなかったこと③次にやってみてみたいことを書き、CanDo リストを使って自分の現在地を確認する。
			(○) 主体的な学び (○) 対話的な学び (○) 深い学び
第 11 時	リハーサル 修正タイム	【主体的態度】 振り返り	■本番で ALT に伝えるために、中間発表の改善点を直し、スピーチを仕上げるができる。 ○ 帯活動：基本文 (2 分×1)・Q&A (5 分) <見ないで> ・自己ベストを目指して練習し、本番で基本文を迷わず使えるようになる。 ・Q&A を全体でクイズ形式にすることで、より実践的な場で英語を使う。 ○ スピーチの振り返り

			・ 中間発表でのスピーチ動画を見ることで、友達のよさと比べ、自分のスピーチに足りないものに気付く。 ・ 第10時に答えられなかった質問への答えを1文加え、本番でも答えられるようになる。 ○ 最終リハーサル ・ モデルと比べて仕上げ、ペアで通して話し、見ずに自信をもって話せるようになる。 ※表情、ジェスチャー、写真の見せ方も工夫させる。 ○ 振り返り ・ 「最初は～だったが、～を聞いて～に変えた」など、自分の変化を中心に振り返りを書く。
			(○) 主体的な学び (○) 対話的な学び () 深い学び
第10時	推し紹介 中間発表	【思・判・表】 【主体的態度】 振り返り	■まだ日本を知らないALTに伝えるために、友達の反応や質問をもとに、スピーチの内容や表現を考えることができる。 ○ 帯活動：基本文（2分×1）・Q&A（5分） <見ないで> ・ 日本語を関西弁にして練習し、英語を意味で捉えて言えるようになる。 ・ Q&Aを全体で3ヒントクイズ形式にし、本時で使う質問の形を全体で確かめる。 ○ ティーチャートーク ・ 初来日のALTが「日本の推しについて知りたがっていること」を動画で見て再確認し、「まだ知らない相手に伝わるか」という観点で自分のスピーチを考える。 ○ マンダラート・マッピング お題：若者にはやっている推しの紹介 ・ これまで各時で書いてきたマッピングを見直し、伝える内容をALTに合わせて選び直す。 ○ 言語活動 お題：推しを紹介しよう ①縦ペア 発表＋質問 → 交代 → 自己更新 ②横ペア 発表＋質問 → 交代 → 自己更新 ③全体 1人がモデル発表 → 質問 → 自己更新 ④斜めペア 発表＋質問 → 交代 → 自己更新

出題者1人→2人
予想以上に盛り上がり
実践的にQ&Aを挟んで
出題の場を増やした

動画を見ただけでは
生徒に意図が伝わらず
教師のモデルを見せることで
理解を促した。

モデル発表1人→3人
みんなの前で発表したいという意欲が
高まったため

			<見ないで> ・前時の文法を意識して練習し，基本文が自然に口から出るようになる。 ・Q&A を全体でクイズ形式にすることで，より実践的な場で英語を使う。 ○ ライティング（エラー修正） ・第6・7時のエラーを自分で直し，推しの魅力を3～5文（15～25語）で正確に書けるようになる。 ・ペア・グループで原稿を読み合い，良い点とアドバイスを伝え合う。 ○ 振り返り ・できたことと改善点を書き，次の課題を自分で決められるようになる。 ※間違いやすいポイントを確認させ，スピーチの改善につなげさせる。
			(○) 主体的な学び () 対話的な学び (○) 深い学び
第7時	Unit 6 Part2 Whose・所有代名詞	【知・技】 ワークシート	■推しの持ち物が誰のものをかを話題にするために，whose・所有代名詞を使って，推しの持ち物について尋ねたり答えたりすることができる。 ○ 帯活動：基本文（2分×1）・Q&A（1分×1） <見ないで> ・見ないで練習し，基本文が自然に口から出て，言語活動で内容に集中できるようになる。 ○ ティーチャートーク ・教師のモデルから場面と目的をつかみ，「自分の推しならこう言える」と見通しをもつ。 言語材料：Whose guitar is this? / It's his. / It's mine. ○ マンダラート・マッピング お題：推しの持ち物 ・全体で共有して書き足し，first, second, thirdで話す順番を決められるようになる。 ※手が止まる生徒には，友達に質問する時間をつくりアイデアを広げる。 ○ 言語活動（基本文を使って） お題（1つ選ぶ）：①持ち物 ②宝物 ③服装 ・スリーヒントクイズにして推しのクイズにする。 ・90秒間チャットで3～5文で紹介し合い，持ち主

			を his / hers / mine で答えられるようになる。 ・聞き手は反応・共感・感想・質問で参加し, I think because を意識する。 ○ ライティング ・話したことを正確さを意識して書き, 言えたつもりの文の誤りに自分で気付く。 フィードバックは第8時に行う。 ○ 振り返り ・できたことと改善点を書き, 次の課題を自分で決められるようになる。 ※持ち主を答えるときは, his guitar / my guitar と名詞を繰り返すのではなく, his / mine と I 語で言い表せることに気付かせる。
			(○) 主体的な学び (○) 対話的な学び () 深い学び
第6時	Unit 6 Part I 人称代名詞	【知・技】 ワークシート	■推しの名前を何度も繰り返さずに話すために, 人称代名詞を使って, 推しと自分の関わりを伝えることができる。 ○ 帯活動: 基本文 (2分×1)・Q&A (1分×1) <見ないで> ・初めて見ないで言うことで, 基本文が自然に口から出るようになる。 ※時間を確保し, 一つずつ確認する。 ○ ティーチャートーク ・教師のモデルから場面と目的をつかみ, 「自分の推しならこう言える」と見通しをもつ。 言語材料: Who is that? / Do you know him? / I often watch him on TV. ○ マンダラート・マッピング お題: 推しと自分の関わり ・全体で共有して書き足し, first, second, third で話す順番を決められるようになる。 ※手が止まる生徒には, 友達に質問する時間をつくりアイデアを広げる。 ○ 言語活動 (基本文を使って) ・スリーヒントクイズにして推しのクイズにする。 ・90秒間チャットで3~5文で紹介し合い, 名前を言わず, he / him などに言い換えて伝えられるようになる。

			・聞き手はクイズに答えながら、反応・共感・感想・質問で参加し、I think because を意識する。 ○ ライティング ・話したことを正確さを意識して書き、言えたつもりの文の誤りに自分で気付く。 フィードバックは第8時に行う。 ○ 振り返り ・できたことと改善点を書き、次の課題を自分で決められるようになる。 ※推しについて話すときは、名前を毎回繰り返すのではなく、he / him / his など紹介する相手に応じた代名詞に置き換えて表現することに気付かせる。
			(○) 主体的な学び (○) 対話的な学び () 深い学び
第5時	教科書音読	【知・技】 音読課題	■本文を意味のまとまりと強弱を意識して音読することで、本番のスピーチでも聞き手に伝わる話し方ができる。 ○ 帯活動：基本文（2分×1）・Q&A（1分×1） <見ながら> ・発音に注意しながら繰り返し練習し、正しい語順で言えるようになる。 ○ 教科書本文の音読 ・意味のまとまりで区切り、内容語を強く、機能語を弱く読み、相手に伝わる話し方に変わる。 ・シャドーイングに取り組む。 ※かんでしまう生徒には、意味のまとまりごとに区切って練習させる。 ○ 振り返り ・できたことと改善点を書き、次の課題を自分で決められるようになる。 ※意味のかたまり、内容語の強調、イントネーションを、スピーチの改善につなげさせる。
			(○) 主体的な学び (○) 対話的な学び () 深い学び
第4時	英作文 エラー修正	【思・判・表】 ワークシート	■スピーチでALTに正しく伝えるために、第2・3時のエラーを直し、3～5文で正確に書くことができる。 ○ 帯活動：基本文（2分×1）・Q&A（1分×1） <見ながら> ・前時の文法を意識して繰り返し練習し、正しい語

			順で言えるようになる。 ○ ライティング（エラー修正） ・第2・3時のエラーを自分で直し、推しの魅力を3～5文（15～25語）で正確に書けるようになる。 ・ペア・グループで原稿を読み合い、良い点とアドバイスを伝え合う。 ○ 振り返り ・できたことと改善点を書き、次の課題を自分で決められるようになる。 ※間違えやすいポイントを確認させ、スピーチの改善につなげさせる。
			(○) 主体的な学び () 対話的な学び (○) 深い学び
第3時	Unit 5 Part2 疑問文・否定文	【知・技】 ワークシート	■推しについて聞き手と質問や答えをやり取りするために、三人称単数現在形の疑問文・否定文を使って、推しがすること・しないことを尋ねたり答えたりすることができる。 ○ 帯活動：基本文（2分×1）・Q&A（1分×1） <見ながら> ・見ながら繰り返し練習し、新しい表現を正しい語順で言えるようになる。 ○ ティーチャートーク ・教師のモデルから場面と目的をつかみ、「自分の推しならこう言える」と見通しをもつ。 言語材料：He doesn't dance, but he writes songs. / Does he ~? / Yes, he does. / No, he doesn't. ○ マンダラート・マッピング お題：推しの意外な一面（すること・しないこと） ・全体で共有して書き足し、first, second, thirdで話す順番を決められるようになる。 ※手が止まる生徒には、友達に質問する時間をつくりアイデアを広げる。 ○ 言語活動（基本文を使って） お題（1つ選ぶ）：①日常 ②活動 ③特技 ・90秒間チャットで3～5文で紹介し合い、質問に答えることで、一方向の紹介から尋ねたり答えたりするやり取りができるようになる。 ・聞き手は反応・共感・感想・質問で参加し、I

			think because を意識する。 ・相手を替え，ペアから聞いた推しのすること・しないことを第3者に伝える。 ○ ライティング ・話したことを正確さを意識して書き，言えたつものの文の誤りに自分で気付く。 フィードバックは第4時に行う。 ○ 振り返り ・できたことと改善点を書き，次の課題を自分で決められるようになる。 ※推しについて尋ねるときは，Are you ~? や Do you ~? ではなく，紹介する相手に合わせた表現になることに気付かせる。
			(○) 主体的な学び (○) 対話的な学び () 深い学び
第2時	Unit 5 Part I 肯定文（三単現）	【知・技】 ワークシート	■自分ではなく推しのことを紹介するために，三人称単数現在形の肯定文を使って，推しの「していること」を伝えることができる。 ○ 帯活動：基本文（3分×1）・Q&A（1分×1） <見ながら> ・見ながら繰り返し練習し，新しい表現を正しい語順で言えるようになる。 ○ ティーチャートーク ・教師のモデルから場面と目的をつかみ，「自分の推しならこう言える」と見通しをもつ。 言語材料：He sings very well. / He writes songs. / He lives in Tokyo. ○ マンダラート・マッピング お題：推しのしていること ・全体で共有して書き足し，first, second, thirdで話す順番を決められるようになる。 ※手が止まる生徒には，友達に質問する時間をつくりアイデアを広げる。 ○ 言語活動（基本文を使って） お題（1つ選ぶ）：①日常 ②活動 ③特技 ・90秒間チャットで3～5文で紹介し合い，推しの「していること」を伝えられるようになる。 ・聞き手は反応・共感・感想・質問で参加し，I think because を意識する。

			・相手を替え、ペアから聞いた推しの「していること」を第3者に伝える。 ○ ライティング ・話したことを正確さを意識して書き、言えたつものの文の誤りに自分で気付く。 フィードバックは第4時に行う。 ○ 振り返り ・できたことと改善点を書き、次の課題を自分で決められるようになる。 ※自分のことを話すときと他者を紹介するときで、表現が変わることに気付かせる。
			(○) 主体的な学び (○) 対話的な学び () 深い学び
第 1 時	ゴール提示 課題把握		■初来日のALTに自分のことや日本のことを知ってもらうため、1学期のスピーチと比べながら、これからの課題を決めることができる。 ○ 帯活動：基本文(3分×1)・Q&A(1分×1) <見ながら> ・一つずつ確認しながら練習し、新しい表現を正しい語順で言えるようになる。 ※分からないところは、全体で確認する。 ○ 単元ゴールの提示 ・相手が初来日のALTだと知り、を「伝える相手がいるスピーチ」ということを理解する。 ○ 良いスピーチ・やり取りの条件を出し合う ・1学期の動画から条件を言葉にし、目指す姿を自分の基準としてもつ。 ○ 教師のモデルスピーチ ・モデルと自分を比べ、この単元で変えたいことを1つに絞って決める。 ○ 振り返り ・今の自分の課題と今後の見通しを書き、単元ゴールへの期待感をもつ。
			() 主体的な学び (○) 対話的な学び () 深い学び

3 本時の目標

初来日の ALT が「今、日本の若者に流行っている人物やキャラクター」を本当に知らず、知りたがっているという状況を踏まえ、まだ知らない相手に伝わるように、友達の反応や質問をもとに、スピーチの内容や表現を考えることができる。また、友達の質問を受けてマッピングに書き足し、相手を替えてもう一度話すことを通して、本番に向けた改善点を自分で決めようとしている。

4 本時の展開

段階	学習内容(分) 【学習形態】	教師の役割	◇指導上の留意点 ◆評価
導入	1 帯活動 (10分)【一斉】 ・基本文トレーニング <見ないで><関西弁で> ・Q&A3 ヒントクイズ 出題者1人→2人 予想以上に盛り上がり 実質的にQ&Aが主だった	・ 前回の記録を示し、自分で目標を決めてから始められるようにする。 ・ 生徒の質問を正しい形でさりげなく言い直して返し、本時で使う質問の形を全体で確かめる。	◇質問の形が浮かばない生徒のために、ワークシートから選べるようにしておく。
	2 ティーチャートーク (5分)【一斉】 ・動画を視聴する。 教師がモデルを示す。動画では1人は話の話を伝えている	・ 初来日の ALT が推しについて知りたがっていることを強調する。	◇動画の内容を生徒に言わせることで、ALT が何を知らたいかを確認させる。
	【学習課題】 まだ日本を知らない ALT に伝えるために、友達の反応や質問をもとに、スピーチの内容や表現を考えよう。 いっしょにモデルを示すことで理解を促す(予備) 次は確認した。		
展開	3 マンダラート・マッピング (5分)【個人】 ・ マンダラートで自分の推しについて考え、アイデアを広げる。 ・ マッピングでアイデアを深め、伝える内容を ALT に合わせて選び直す。	・ 使えるようなアイデアを共有し、生徒に選ばせる。 ・ 出たアイデアを内容のまとまりごとに分けさせ、話す順番をナンバリングさせる。 ・ 推しを知らない相手に伝えることを意識させて、話す内容や順番を考えさせる。	◇手が止まっている生徒に、友達のアイデアを参考にさせることで、自分で書き出せるようにする。

	4 言語活動 (25分)【ペア・一斉】 ・発表+質問→交代→更新 ①縦ペア ②横ペア ③全体(モデル発表) ④斜めペア ・発表者は画像を見せ、マッピングを見ながら3~5文で話し、質問に答える。 ・聞き手はキーワードをメモしながら質問する。 ・自己更新につなげるため、質問されたことを赤、付け足したことを青でマッピングに書き足す。	・各ペアを回り、言い方が分からず困っている点や、良い点・改善点などを全体で共有する。 ・質問に答えて内容が増えた姿を見取り、全体で価値づける。 モデル発表1人 みんなの前で発表したという 意欲が表れてたため アシストは使わずにできた。 アシストは準備や画像に選ぶのに時間がかかるため 生徒が話したい点に集中していた。	◇誤りは止めずに正しい形で言い直して返す(リキャスト)ことで、内容重視のやり取りを続けさせる。 ◇発表が止まっても教師が言葉を与えないことで、聞き手の質問やヒントで自分から話し出せるようにする。 ◆評価【思判表】観察 ・質問に即興で対応し、既習表現で伝え合っている。
まとめ	5 振り返り (5分)【個人】 ・「最初は~だったが、~を聞いて~に変えた」など、自分の変化を中心に振り返りを書く。	・学びの深まりを実感させ、本番に向けた新たな目標をもたせる。 あと1分指示してよかった。	◇友達の変化を全体で共有することで、自分の変化に気付いていない生徒に視点を与える。 ◆評価【主体】振り返り ・自己調整の姿を見取る。

5 授業の視点

- 生徒が教師の指示を待たずに、自ら考えて、活動している場面はあったか。
- 友達とのかかわりを通して、生徒の考えや表現にどのような変化や成長が見られたか。

			・発表者はマッピングを見ながら 3～5 文で話し、聞き手の質問にこたえる。 ・聞き手は話に出たキーワードをメモし、それについて質問する。 ・自己更新では、友達に質問されたことを赤、それを受けて付け足したことを青でマッピングに書き足す。 ※質問に即興で対応し、既習表現で伝え合っているか観察する。 ○ 振り返り ・「最初は～だったが、～を聞いて～に変えた」と書き、自分の変化を言葉にする。
			(○) 主体的な学び (○) 対話的な学び (○) 深い学び
第 9 時	教科書音読	【知・技】 音読課題	■本文を意味のまとまりと強弱を意識して音読することで、本番のスピーチでも聞き手に伝わる話し方ができる。 ○ 帯活動：基本文（2 分×1）・Q&A（5 分） <見ないで> ・発音に注意しながら見ないで練習し、基本文が自然に口から出るようになる。 ・Q&A を全体でクイズ形式にすることで、より実践的な場で英語を使う。 ○ 教科書本文の音読 ・意味のまとまりで区切り、内容語を強く、機能語を弱く読み、相手に伝わる話し方に変わる。 ・シャドーイングに取り組む。 ※かんでしまう生徒には、意味のまとまりごとに区切って練習させる。 ○ 振り返り ・できたことと改善点を書き、次の課題を自分で決められるようになる。 ※意味のかたまり、内容語の強調、イントネーションを、スピーチの改善につなげさせる。
			(○) 主体的な学び () 対話的な学び (○) 深い学び
第 8 時	英作文 エラー修正	【思・判・表】 ワークシート	■スピーチで ALT に正しく伝えるために、第 6・7 時のエラーを直し、3～5 文で正確に書くことができる。 ○ 帯活動：基本文（2 分×1）・Q&A（5 分）